

令和 6 年度 学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立梅丘中学校 学校関係者評価委員会

1. はじめに

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが五類感染症となり 2 年目となった。河口湖移動教室が 2 泊 3 日に戻るなど、学校生活はコロナ禍以前の日常を取り戻すことができ、活気あふれる充実した教育活動が繰り広げられた。今年度も学校関係者評価委員会では、世田谷区の「学校評価システム」に基づき、以下の 3 点を分析・評価対象として本報告書を作成した。今後の教育活動と学校運営にご活用いただきたい。

- (1) 学校関係者評価アンケート世田谷区共通評価項目集計結果の分析・評価
- (2) 学校関係者評価アンケート梅丘中学校独自評価項目集計結果の分析・評価
- (3) 梅丘中学校生徒の学校生活振り返りシート集計結果の分析・評価

2. アンケート実施状況

アンケートは、令和 6 年 1 月 28 日～1 月 29 日に実施された。

【生 徒】対象355名 回答312名 回答率88% (前年度76%)

【保護者】対象355名 回答201名 回答率74% (前年度56%)

【地 域】対象 60名 回答 32名 回答率53% (前年度46%)

今年度もオンライン方式によりアンケート調査が行われた。オンライン方式が実施された 2 年前は、保護者の回答率が 40%と著しく減少したが、緊急連絡情報配信サービス「すぐる」を活用した広報活動などが功を奏し、保護者の回答率は大きく増加した。

また、地域へのアンケート配布数を前年度より増やしたため回答率の低下が心配されたが、予測に反して回答率は増加した。地域の方々の梅丘中学校に対する関心の高さがうかがえる。生徒・保護者や地域の願いを受け止めて、地域とともに子どもを育てる教育を推進するため、アンケート回答率が増加していくことはとても重要である。

3. アンケートの分析・評価

本報告書では、「とても思う」「思う」の割合の合計を「肯定的評価」、「あまり思わない」「思わない」の割合の合計を「否定的評価」としている。また、小数点以下の数値は四捨五入して表記している。

- (1) 重点目標・数値目標について

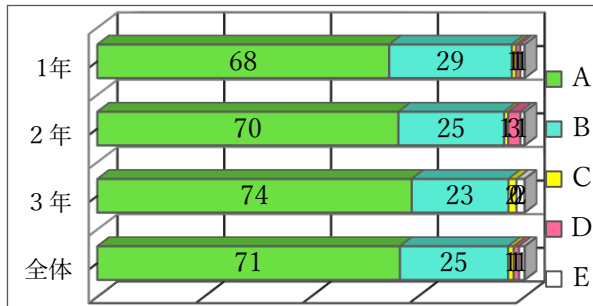
①キャリア・未来デザイン教育の充実

生徒の「学校行事は達成感がある」に対する肯定的評価を 90%以上にする。

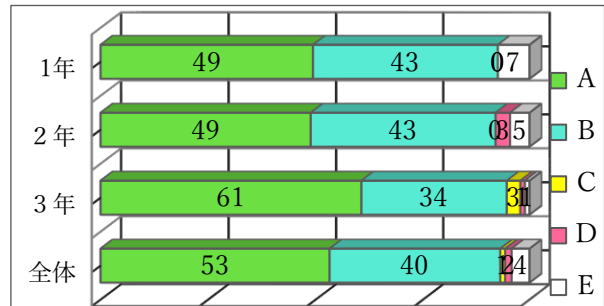
この問いに対する肯定的評価は、1 年：97% 2 年：95% 3 年：96%であり、とて高くなっている。生徒の自治的な活動を推奨することにより、様々な課題に向き合い、正しく判断しようとする姿勢をもって行動し、良い経験を積み重ねて各自が思い描く未来を実現できる資質・能力を育もうとする教育活動が着実に成果をあげている。保護者の「学校

行事は子どもにとって達成感がある」という問いの肯定的評価も 93%と高くなっており、学校行事の充実ぶりがとてもよくわかる。

○学校行事は達成感がある。



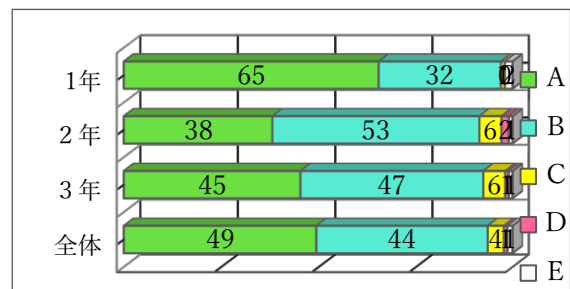
○学校行事は子どもにとって達成感がある。



②生徒の主体的な学びを推進する授業改善

生徒の「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている」に対する肯定的評価を90%以上にする。

この問いに対する肯定的評価は、1年 97% 2年：92% 3年：93%であり、とても高くなっている。特に、1年生の評価は「Aとても思う」が65%、「B思う」が32%となり、B評価よりA評価が高いという他の学年には見られない特徴があった。

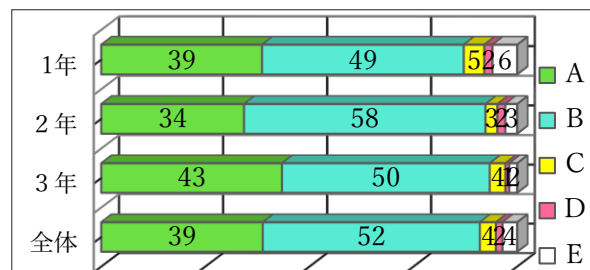


また、3年生は、2年次の同じ問いへの肯定的評価は82%であったが、10%以上上昇するという良い変化が見られた。同傾向の問い「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」への肯定的評価も、1年：97% 2年：91% 3年：94%となっている。学び合う授業への授業改善をテーマにした校内研修の取り組みが実を結び、生徒の意欲を引き出す様々な工夫が高評価の大きな要因となったと考える。

③豊かな心を育む教育の推進

生徒の「わたしは、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している」（独自項目）の肯定的評価を85%以上にする。

この問いに対する肯定的評価は、1年：87% 2年：92% 3年：93%と、数値目標を達成しているとともに、学年が上がるごとに肯定的評価が増えている。そして、3学年全体の肯定的評価を前年度と比較してみると、



5年度 87%から6年度 91%に上昇している。さらに、生徒の「学校生活振り返りシート」の集計結果をみると、9教科と道徳を対象とした「授業内容を理解していますか」

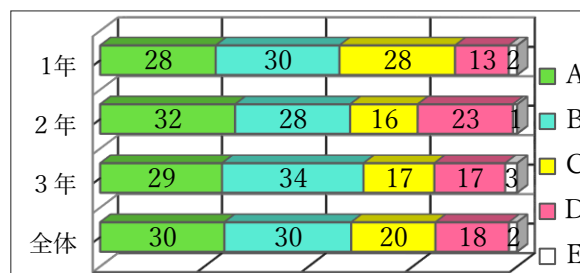
という問いに対して、道徳への肯定的評価が97%と最も高くなっている。前述した授業改善の成果は道徳にも表れ、活発な意見交換を通じた生徒の心に響く道徳授業が肯定的評価増加の一因とみられるが、それに加えて生徒の実態を踏まえた学校全体の意図的・計画的な生徒指導が機能しているものと考ええる。

(2) 重点目標以外の評価項目について

①学習指導

生徒全体の共通項目への肯定的評価はどれも80%を超えているものの、独自項目「わたしは、本を読むのが好きである」という問いへの肯定的評価は60%、否定的評価は37%であった。読書活動は、学習の基盤となる言語能力を向上させるためにとても重要な活動となる。読書活動の充実をめざした取り組みの工夫・改善が今後の課題である。

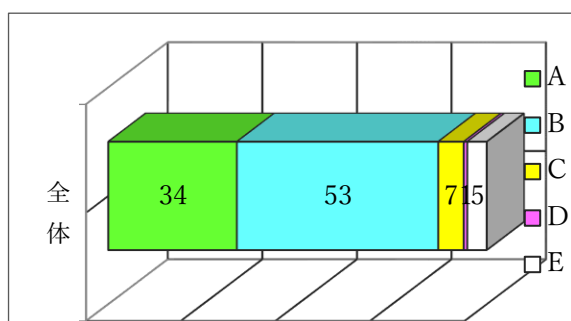
○わたしは、本を読むのが好きである。



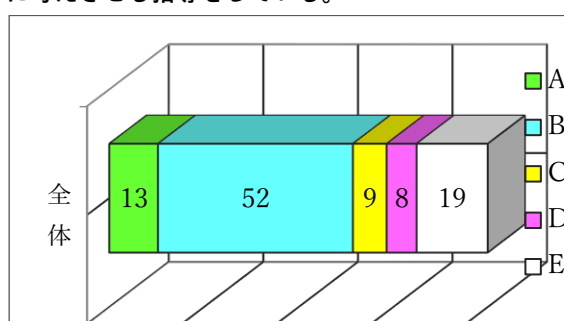
②生活指導

共通項目と独自項目「わたしは授業規律を守っている」への生徒全体の肯定的評価はどれも80%を超えている。「学校生活のきまり」を理解し自覚をもって行動しようとする生徒がとても多く、落ち着いた学校生活につながっている。一方、保護者の「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」という問いへの肯定的評価は64%、「わからない」が19%となっており、保護者に学校の指導の在り方を知っていただくために、保護者会での説明にとどまらない様々な工夫が求められる。

○わたしは、授業規律を守っている。



○本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。

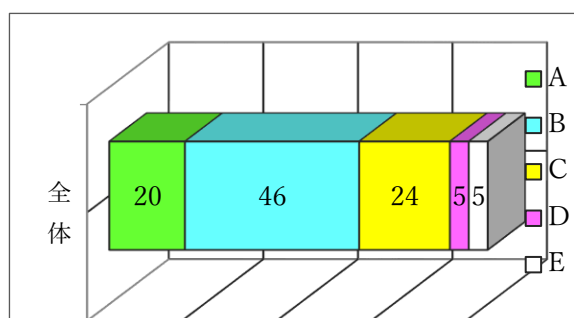


③キャリア教育

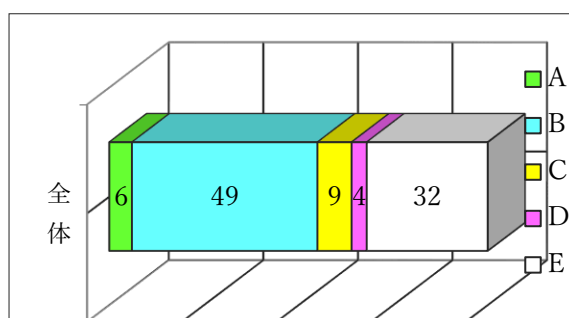
重点目標①の分析にある通り、学校行事への生徒・保護者の肯定的評価はとても高いが、学校行事以外の面からもキャリア・未来デザイン教育を評価検証する必要がある。そこで、小学校から継続的に活用している「キャリアパスポート」に関する問いへの回答に注目していただくことにする。生徒の「私は、キャリアパスポートに書いた目標について、考

えて行動している」という問いへの肯定的評価は、前年度 55%から 66%へと増加した。また、保護者の「本校は、キャリアパスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」という問いへの肯定的評価は、前年度 47%から 55%へと増加した。他の評価項目の高い肯定的評価に比べると、キャリアパスポート活用の仕方に改善の余地があると考ええる。特に、保護者への同質問への評価で「わからない」が 32%ととても多くなっていることが改善の糸口になりそうである。今年度より三者面談で活用し始めたので、今後の推移を見守っていききたい。

○私はキャリアパスポートに書いた目標について、
考えて行動している。

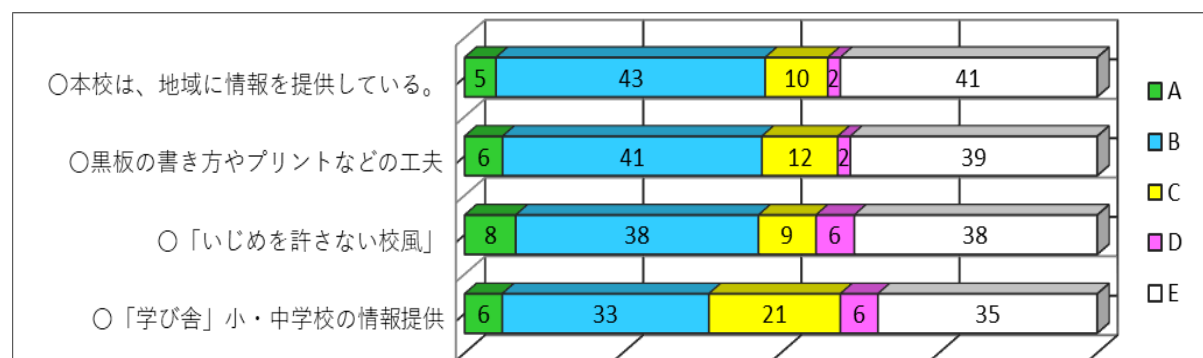


○本校はキャリアパスポートの目標について、子供
に考えさせる指導をしている。



④学校からの情報提供・広報活動

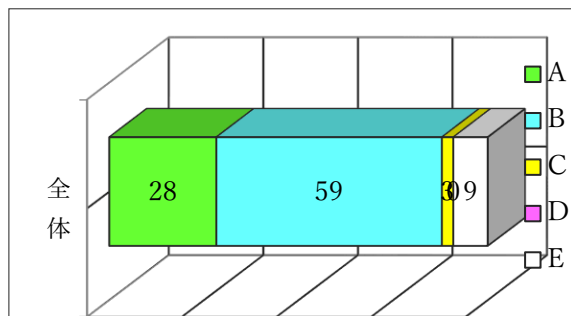
情報提供に関する保護者の評価は、各種便り・ホームページ・メール・学校公開・保護者会に関する問いに対しては肯定的評価が 75%を超えており、一定の成果がみられる。しかし、保護者の評価で「わからない」が 25%を超えている問いが 14 項目あり、広報活動の工夫・改善が課題となる。特に「わからない」という回答が多い項目は、地域連携・学校運営・授業の工夫・学び舎・いじめを許さない校風・キャリア教育であった。学校からの配布物を紙ベースに加えてメール配信したり、学校だよりを地域の回覧板に載せたりするなど工夫・改善の余地はまだありそうである。他校の事例も参考にしながら進めていただきたい。



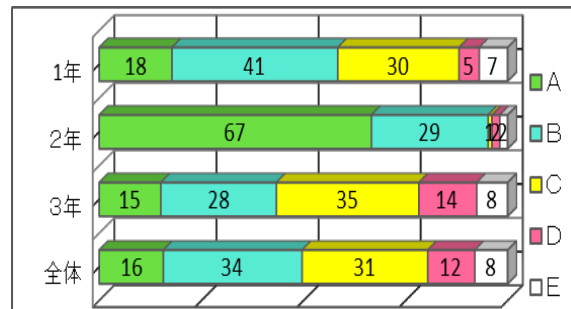
⑤地域との連携

「地域社会との協働」は、「令和5年度 次年度に向けた改善方策」にも重点項目として示されている。指標として「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」という地域への問いの肯定的評価を80%にするとしているが、集計結果では88%となった。地域の方々と関わる場面が充実しているようである。その反面、生徒の「わたしは、地域活動やボランティア活動に関心をもっている」（独自項目）という問いへの肯定的評価は、2年生では96%と極めて高いが、全体では50%と、独自項目中最も低くなっている。コロナ禍を経て地域活動や学び舎連携活動の在り方が見直されている面があり、そのことが影響しているとも考えられる。生徒が地域と関わりあう場面は、地域とともに子どもを育てる教育を進める上でも大切にしたい活動である。生徒・保護者・地域そして教員にとって、無理なく続けられる「持続可能な地域活動」を四者が連携して模索して行ってほしい。

○地域の人材や施設を教育活動に活かしている。



○地域活動やボランティア活動に関心をもっている。



4. 総合所見

今年度の教職員一丸となった教育活動への取り組みにより、目指す生徒像である「正しい判断力を身に付ける」生徒・「豊かな心をもつ」生徒の育成にむけて着実に成果を上げている。しかし、現状に満足して改善を怠れば、学校としての成長の歩みは滞ってしまう。次年度にむけた学校運営の方向性を探る上で、最後に、生徒の振り返りシートに記された回答を基にして、報告書のまとめとしたい。

生徒の学校生活振り返りシートには、『知りたい』『学びたい』『充実している』と思う授業はどんな授業ですか」という問いがある。その問いに生徒は、「話し合ったり発表する時間があったりする授業」「みんなで話し合う授業」「班や近くの人と意見を共有できる授業」といった対話的で協働的な学習活動を肯定的に評価する回答を多く寄せていた。このことから、学校が取り組んでいる重点目標の達成に向けた授業改善の成果がうかがえる。今後とも、生徒・保護者・地域と真摯に向き合い、教育活動の根幹である授業の改善に取り組んでいただきたい。

また、振り返りシートにある「学校や学年・学級をよりよくしていくための意見」に対して、少数ではあるものの、学校生活を心配する回答があることも忘れてはならない側面であ

る。一人ひとりの生徒の思いや願いを受け止め、目指す学校像である「笑顔のあふれる学校」の実現にむけて全校体制で尽力されることを期待したい。

本報告書に示した成果と課題を十分にふまえて、次年度の学校運営がより一層充実・発展していくことを祈念します。

令和6年度 世田谷区立梅丘中学校 学校関係者評価委員会

栴田 和明（委員長） 鈴村 章子 福島 智子 高橋 純子 神内 由貴 事務局 藤井 朱世